



患者様に安全な医療を提供するために！



～ 医療事故とは ～

病院の中では、さまざまな要因が絡みあって、さまざまな事故が発生する可能性があります。それが治療・看護・介護・検査が元となって患者様に不利益を与えたのであれば、それは「医療事故」として判断されることがあります。

～人は、誰でも間違える～

当院スタッフも日々研鑽を重ね技術向上に努めていますが、完全無欠というわけにはいきません。やはり、どうしても“思い違い”を起こす場合があります。そのような“うっかりミス”を防ぐために、あるいは“ミス”を「医療事故」につなげないために、常に安全が確保されるようなシステムが必要となってきます。

～ 医療安全管理委員会の取り組み ～

当院では、このような医療事故の発生防止や発生時の対応方法を明確にし、患者様に適切かつ安全な医療を提供することを目的として、平成16年度に医療安全管理委員会を設置しました。

平成24年度には、新たに医療安全管理室を設けて、医療安全管理者を配置しました。

毎週開催するカンファレンスや毎月開催する安全管理委員会では、年間300件を超える“ヒヤットした！”“はっとした！”という医療スタッフからの報告事例を集計・分析しながら、検証・対策・改善というサイクルの中で、「絶対、

医療事故は起こさせない！」ための監視と管理を続けています。

～ 相談窓口の設置 ～

また、最近では、患者様やご家族の方からの言葉にこそ、医療の安全な提供に繋がる道があると考え、「不明・不安・不満」を解消するために相談窓口で話を伺っています。直近3カ月では、41件の相談をお受けしました。

また、医療福祉連携室でも、医療ソーシャルワーカーが社会福祉制度、経済的な問題、他の医療機関の紹介等、相談業務の援助を行っていますので、お気軽にご相談ください。



医療安全管理委員会および医療安全管理室のスタッフ

歴史調査の楽しみ方

9

月9日の昼から、台風18号の影響で、城跡に強風が吹きました。「今日は涼しいね」と喜んでいたら、翌日、この台風が、記録的な豪雨を関東地方にもたらし、茨城県常総市で大洪水を引き起こしました。改めて、自然災害の恐ろしさを感じ知らされました。

「城尾」地区の調査

城跡の中心部です。北端に地形の大きな括れ部があり、城時代は、ここに堀切が造営されていた（後世に埋め立てられました）。城尾は、ここから南下の菊池川に向かって、東西に大きく広がっています。規模は、長軸（北東側～南西側）247m、短軸は最大で（北西側～南東側）96mもあります。造成地は、15区画を数えます。大方、長方形の平地で、③・⑪・⑫は、真つ平らです。③は長軸67m、短軸33～17mの大きさがあります。

各段の段差は、⑤～⑩が最大で2.6m、①・②・⑨・⑪は、0.5～0.4mに留まります。この2箇所を除くと、段差の上りおりは、結構、大変です。城跡地という感じがします。

城尾の長軸部分は、⑨から下位がすば

江栗城跡

25

まづ、三段の带状平地になります。

近隣の城跡

和仁川が菊池川に合流する地点近くに年ノ神城跡があります。和仁川の左岸近くに位置する独立した小丘陵です。隅丸方形に近く、標高29m、上面域は、南北の長さ150m・東西130mの規模があります。「城ノ原」の小名が残り、城歴は不明です。

菊池川との合流点からは、350m奥まり、菰田船継所跡とは、約500m離れています。江栗城跡とは約700mあります。

先月号では、菊池川の水運に関連する城跡について、江栗城跡と焼米城跡を取り上げましたが、年ノ神城跡も加える必要があります。この城跡は、早急に、現地を訪れたいと思います。

岩村川のこと

菰田船継所跡の北東側で、岩村川が菊池川と合流しています。中流域の左岸には、前城跡と岩村城跡が存在しています。菰田には、このように二つの川が合流しており、船継所に相応しい場所である事が分かります。



写真2 ⑫～⑬間の段差



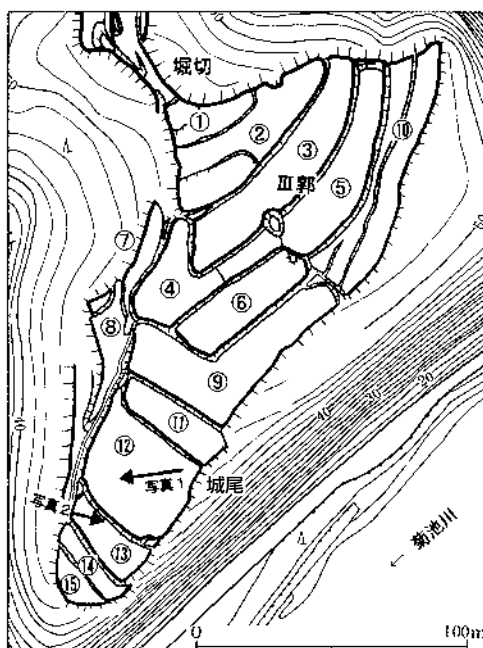
写真1 Ⅲ郭～⑫

段差	(m)
①～②	0.52
②～③	1.36
③～⑤	1.88
⑤～⑩	2.61
④～⑦	1.73
④～⑥	0.83
⑥～⑨	1.41
④～⑨	1.80
⑨～⑪	0.37
⑪～⑫	0.93
⑫～⑬	1.33
⑬～⑭	1.78
⑭～⑮	1.02

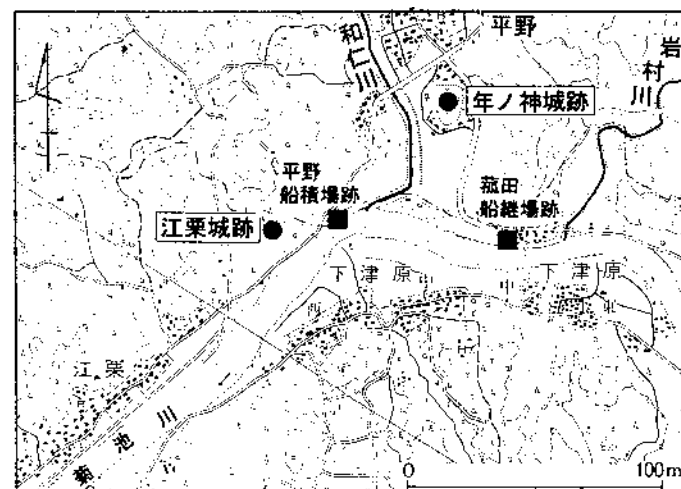
区画間の段差

区画	長軸(m)	短軸(m)
①	33	12～8
②	76	24～15
③	100	18
④	41	25
⑤	79	18.5～10
⑥	50	17
⑦	53	7～2
⑧	—	—
⑨	67	33～17
⑩	94	17～11
⑪	43	14
⑫	43	35
⑬	35	15～10
⑭	33	5
⑮	27	9～5

区画間の規模



江栗城跡Ⅲ郭



江栗城跡・年ノ神城跡 周辺図

大田 幸博

（元・菊水町史編集委員会副委員長）